

御用新聞も隠せなくなった事実

——ニューヨーク・タイムズとワシントン・タイムズ

平和統一 NEWS No. 90 (2016/3月号)

渡辺 久義

IS (ISIS、ダエシュ、イスラム国) というテロリスト集団が、そもそもどこから、どのようにして現れたのか、どうして短期間にあれだけの勢力をもつに至ったのか、どうして米・NATO 軍が彼らを世界共通の敵だと言いながら、本気で攻撃する様子がないのか、ということが(新聞とテレビしか見ない人には)不可解なナゾだった。インターネットの世界では、ミシェル・チョストフスキー教授などが、早くから「IS は CIA (米中央情報局) の asset (人的資産) である」と説明し、写真などの証拠も発表されて、アルカーイダや IS は、アメリカが、シリアのアサドなどを倒すために、特別に訓練し武装させて作り上げた傭兵部隊であることは共有の知識になっていた。(www.dcsociety.org 2015/6/9 「アルカーイダと IS テロ集団を創ったのはアメリカ」 2015/3/23 「米メディアが“スンニ・ムスリム軍”と呼ぶのはメイド・イン・アメリカ」 2014/9/18 「9・11 リーダー (序文)」 など参照)

しかし、この事実を“御用新聞”のニューヨーク・タイムズが明らかにしたのは驚きだった。これは 2015/12/10 の D・ウィルコック「大詰めを迎えたディスクロージャー：真理を求める戦争」10～11 ページあたりで言っているように、「事実そのものよりも、これを NY タイムズのような新聞が載せたことに意味がある。」これはウォールストリート・ジャーナルも載せたようであり、おそらく CIA が隠しきれなくなったものと考えられる。

2014年9月20日のNYタイムズは、「CIA とイスラム国が癒着している疑いがイラクで深まる」という署名記事で、こう書いた——

「アメリカは 1 か月以上、イスラム国の過激派に対して強烈な空爆作戦をエスカレートさせてきた。しかし、それにもかかわらず、バグダッドの市街から、イラク政府の最高レベルにまで行きわたっている、CIA はひそかに、自分が攻撃している同じ過激派の背後にいるという陰謀論を、抑え込むことができないようだ。〈我々は誰がダエシュを創ったのか知っている〉とイラクのアル-アラジ副首相は言い、…アル-サドル師は、CIA がイスラム国を創ったのだと、公然とこれを非難した。…いくつかのインタビューからわかったことは、シーア派のデモに出席した数十人の議員を含む数千人のほとんど

だが、この同じ説を唱えていることだった。スンニ派のムスリム青年オマール・アル・ジャブールは〈イスラム国が、米とイスラエルの創ったものであることは、誰でも知っている事実だ〉と言った。」

実は私がこの文を書く気になったのは、超保守と目されているワシントン・タイムズが、もっと激しい口調でこの「アメリカの嘘」を暴き、アメリカを告発しているからである。これは私が友人から教えられた、日本語のネット記事「米が、トルコ向けの原油密輸に際して ISIS を支援」によるもので、日付は 2015 年 12 月 7 日、翻訳は私のものではない――

「アメリカ政府は、トルコ向けの原油密輸に際して、テロ組織 ISIS を支援している。…ISIS に対抗しているという米政府の主張を信用してはならない。…トルコへの原油密輸という ISIS の行動に目をつぶるアメリカの行動は、世界におけるこの組織の勢力拡大に共謀していることを示すものだ。…ロシア国防相は先週土曜、ISIS の管轄下にあるシリア地域からの、トルコへの原油輸出を黙認しているとして、アメリカを非難したが、これに対してアメリカは、このルートから密輸される石油の量は微々たるものであると反論している。…ロシアは、ISIS の拠点を空爆することで、ISIS を殲滅する決意を示したが、アメリカはトルコへの原油密輸という ISIS の行動を黙認することで、今後この組織が力をつけ、世界のほかの地域に勢力を拡大し、人々の命を脅かすことになることについて、その責任を問われるだろう。」

実を言うと私は、この記事を教えてくれた友人と同様、ワシントン・タイムズがこれほど強い調子で現米政府を非難するとは思わなかった。私はこの新聞が、ブッシュ族などの結びつきによって勢力を得たもので、いわば御用新聞として出発したことを知っていたから、主流新聞が決して書かない、このような反ワシントン記事を書くとは思わなかった。NY タイムズがこの暴露を、外国の“風評”の形で書いているのに対し、ワシントン・タイムズは自らの“告発”として書いている。私が目を通すいくつかの反ワシントンのインターネット・サイトは、NY タイムズやワシントン・ポストの虚言と墮落は指摘するが、ワシントン・タイムズについては、ほとんど何も言っていない。願わくは、これがこの新聞の“雑音”でなく主調音であってほしいものである。そうしてこそ、この新聞が、主として日本人による多額の寄付によって創設された意味があったことになる。そして何よりも、日本のメディアがこれに続いてほしいものである。